



学校法人志賀学園
久之浜こども園
令和7年4月30日

萌黄色の山並みに山桜の薄桃色が重なり、まるで水彩画のように美しい風景です。そして、その淡い色合いが所々みどりを増し、若葉の季節に移り変わろうとしています。

青空の下、園庭にはこいのぼりが悠々と泳ぎ、それを見上げる子ども達は「うわ〜！おおきい！」「こいのおとうさんとおかあさんとこどもだね！」と、驚きの声が飛び交う4歳児の声。小久川沿いに満開に咲いている桜の花の下を散歩しながら、「桜の花の色って白にちかいピンク色、きれいだね！」また「桜の花びらは何枚かな？」との担任の声掛けに「5枚！」と答える5歳児。

牛乳パックに砂を入れ「野菜のたねまきをしたの！」と、さも本当に種を蒔いたかのように見せにきてくれる3歳児。「何の種を蒔いたの？」と聞くと…

「なすとかピーマンあとトマト！」と野菜の名前を知っていて話すA子ちゃんの姿に、きっとお家での体験を再現しているのだろうと感心させられます。

2歳児は、登園時イヤイヤ期も重なり大きな声をあげて泣く子、しかしお部屋に入ると泣き止み「わたしね！お外で泣いたんだよ！今は泣いてない！」時には「お父さんにあいたい！」と急に泣き出す子など、個人差はありますが一人ひとり、思いっきり自己主張をする姿が見られ…。子どもなりに自分の思いを精いっぱい表し、集団に慣れる過程をたどっていることを感じます。0歳、1歳児クラスは、慣らし保育も徐々に進み日々落ち着いてきてはいるものの、時々泣く子ども達の姿に『家と園の違いに気づけるようになったのね！学習しているね！』と思いながら見守っています。連休明けも一人ひとりの育ちに合わせ子どもが安心して過ごせる環境を整えて参りたいと思います。

さて、子どもが生まれるとお七夜、お食い初め、お節句、七五三など子どものための行事に触れる機会が多くなることと思います。でも、どうして子どもができると節目々の行事をするようになるのでしょうか。それは、日本の行事は家族の幸せを願う気持ちを形にしたものだからなのです。行事の多くはもともと宮中行事や農耕行事として始まりましたが、どれもこれも幸せを願って行なわれるようになったものばかりです。日本には、見えない思いを物事にたくすおくゆかしい文化があり行事に反映されています。端午の節句もその一つです。5月5日のこどもの日には鯉が滝を登って行くように子どもが頼もしくなるようにこいのぼりをあげたり、逞しい人になるようにと力強い武者人形を飾ったりしてこどもの成長を願います。また新芽が伸びるまで地面に落ちない柏の葉にたとえて柏餅を食べます。このように昔から伝わる行事の意味を知り、子どもを思う親の気持ちを大切にしていきたいですね。